

宝塚市自立支援協議会 専門部会 「こども部会」  
令和3年度 活動経過報告

- I. 開催日時
- |     |               |             |        |
|-----|---------------|-------------|--------|
| 第1回 | 令和3年8月11日(水)  | 13:30~15:30 | 出席者19名 |
| 第2回 | 令和3年10月13日(水) | 13:30~15:30 | 出席者19名 |
| 第3回 | 令和3年12月8日(水)  | 13:30~15:30 | 出席者17名 |
| 第4回 | 令和4年2月9日(水)   | 13:30~14:30 | 出席者18名 |

II. 要旨

第1回こども部会 (R3.8.11)

1. 自立支援協議会の説明と部会長・副部会長の就任について承認

2. 自己紹介

3. 今年度の議題の確認

- ・トライアングルプロジェクトについて（教育・家庭・福祉の連携）

○教育委員会、<sup>がい</sup>障害福祉課の取り組みを説明。

昨年の10月にトライアングルプロジェクトを提案し、3月に県が教育・家庭・福祉の連携マニュアルを策定した。それを受け、宝塚市では様式の一部を更新して、5月の校長会で承認を得て、6月15日に各校に依頼をしている。取り組み方、時期等は学校によって、多少の誤差はあるが開始されている。

学校を通じて、放課後等デイサービスを利用していることを把握している家庭に配布すると同時に、<sup>がい</sup>障害福祉課からも事業所へ配布してもらい、学校が把握していない方も<sup>がい</sup>障害福祉課からのアプローチによって新たに把握できる。

<sup>がい</sup>障害福祉課も歩調を合わせて協力していきたいと事業所への周知をしている。

○意見

- ・活用事例等共有しながら今後も見直していけるよう、情報を収集したい。
- ・宝塚市内の委託相談支援事業所もこの4月から地区割になり、地域の学校ごとに連携を進めていけるのではないかと。
- ・実際に動き始めている学校もたくさんある。連携が取れ始めて、子どもたちのその日の様子がわかるようになって助かるという声も聞いている。
- ・自立活動の内容について、教育と福祉の見え方が違って、意見が違ってずれてしまうことがある。先生と福祉・放課後等デイサービスの意見がずれて、保護者がどっちの立場に立てばいいのか迷うケースがある。その辺りの意見のやり取りが建設的にいくように、良い事例がたくさん集まれば良いと思う。それが現場に下りていき、福祉関係も教育関係もこんな運用をしていけると知ることができると良い。大きなプロジェクトのやり始めの時なので、何年かかけて、本当に質のいいサービス（教育も福祉も）の提供ができるように持っていく必要がある。こども部会で考えることができたらいいと思っている。

- ・実施していく中での進捗状況など今後の部会で報告してほしい。

2. 性教育の講演会について

令和元年度、京都市総合支援学校支援部医療福祉コーディネーターの平木真由美先生に依頼し、

講演会の開催を検討していたが、新型コロナウイルス感染症の発生に伴い、一旦中止となっている。オンライン化も進んでいるため、開催に向けて様々な方法を検討したい。

#### ○意見

- ・ 障碍のある子どもも身体も心も成長していく、その伝え方について。特に知的や発達障碍児の保護者は、変化に戸惑って不安な部分もある。いつまで続くのか、性のことについてどうやって教えたらいいいのかということが不安な方もいるので、保護者向けに開催していけたらと思っている。
- ・ ZOOMなどを活用しての講演会も考えられる。
- ・ 発達の段階は様々であるため、性教育というのは、個々によって幅がある。特に発達障碍の方に難しいところがあって、学校で受けるような性教育ではなかなか難しいという時に、自分では理解できないが体と心に変化が出てきて、保護者がどう対応していけば良いかがわからないということはよくあると思う。
- ・ 非行・虞犯の通告の中に発達障害でよく意識しないまま性的な加害者になるお子さんも時々いる。そのような場合は、プログラムでどんなやり方が良かったか、人との距離の取り方などの話をしている。しかし基礎知識がない場合が多く、保護者も子どもの思春期の成長について定型発達の子どものとどう違ってくるかを知らない方も多い。
- ・ 発達特性のある子どもについては、間違えて理解することもあるため、親がどんな風に教えているかというのは大きい。
- ・ 状況を見ながら遅くとも来年度には行いたいと思う。内容についても再度検討する。

### 3. 緊急時の対応について

昨年度からの持ち越し課題。新型コロナウイルス感染症や思いがけない災害などが起きた場合にどう連携していくか。昨年度は、連携がうまく機能していなかったという意見があった。

○新型コロナウイルス感染症の対応について、保護者が新型コロナウイルス感染症にかかって隔離された場合の子どもの居場所についての現状を確認

- ・ 県の施策で 保護者が新型コロナウイルス感染症に感染した場合の障碍児の受け入れは、こども家庭センターの一時保護所等との連携を基に、預かり事業を実施していると把握している。
- ・ 昨年後も実施していると思うが、障碍児の受け入れに関しては今年度も把握していない。実際に希望する方は少なく、ご親族や保護者の方々が都合をつけてなんとかしている場合が多い。
- ・ 保護者が体調を崩してではなく、利用している事業所の職員に陽性者が出て、自宅での待機になり、急な予定変更で、本人がパニックになって困っているという声も聞いている。
- ・ 医療的ケアを必要とする子どもの保護者が新型コロナウイルス感染症に関係なく体調を崩し入院が必要だが、子どもを見てもらえないため、入院しないという事例が出ている。
- ・ 福祉サービスとしてはショートステイという選択肢がある。しかし医療的ケアや重症心身障碍児の受け入れができるどころとできないところがある状態。広い範囲になるが、重症心身障碍の方を預かることのできる施設をネットワークとして作ることを模索している。
- ・ 昨年度は長い休校期間に、福祉サービス事業所がかなり頑張って受け入れをしたが、学校との連携などがあれば良かったという意見があった。緊急時も安心して支えていけるよう連携が大切。
- ・ このことは、こども部会だけの話ではなく、他の部会ともつながっていくのではないかと。情報を保護者に発信していけるように相談員に情報として持ってもらいたい。

## 第2回こども部会 (R3.10.13)

### 1.性教育の講演会について

【講師】平木 真由美先生 【開催時期】2022年6月頃 【開催日】平日

【対象者】保護者・支援者等(幅広く周知)【開催場所】中央公民館(仮)

【開催方法】ZOOMと来場のハイブリッド方式(計100名)

【録画について】講師の許可を取り、YouTube配信やDVDの貸出等ができるような形をとり、多くの方が受講できるような形をとる。

【広報方法】広報たからづかへの掲載(5月頃)・市のホームページ掲載・学校と幼稚園等に配布。

→次回こども部会の開催時に具体的に話を進めていくこととする。

### 2.トライアングルプロジェクトについて

こども部会として、福祉と教育と家庭との連携はとても重要であると認識しているが、どのようにこども部会として、関わっていくのかは模索状態である。

○各機関での取り組みを報告

・トライアングルプロジェクトのモデル校として、事業所・保護者・学校三者での連携の取り組みは、一昨年位から実施している。それ以前から放課後等デイサービス事業所を利用される方が多くなったこと、学校から直接向かう方も多いこともあり、利用事業所の把握はしていた。

・現在取り組んでいるのは連絡帳の共有。事業所を利用している方全員ではなく、共有の希望があった家庭のみ連絡帳に「連携シール」を貼り、学校も事業所も互いに連絡帳に目を通して構わないという取り組みを行っている。しかし、まだ十分ではない。

・現時点では、希望される方から進めている段階ではあるが、事業所・保護者・学校の3者で連携会議を開催をしている。児童の事を共通理解できるため、重要な手段である。しかし、学校は生徒がいる時間帯は会議を持ちにくい一方、放課後等デイサービスは放課後には時間がとりづらい点で開催時間の調整の難しさがある。

・日々の連携では、学校から放課後等デイサービスの受け渡しの際に口頭で必ず本人の状態を職員に伝えている。

・特に進学の時には会議を開いてほしいという話はよく出ている。

・入所施設では、家族と同じような役割になるため、連絡帳を利用者1人1人に持って頂き、様子を学校と施設でやり取りしている。しかし、内容の理解ができる利用者は気になって読んでしまうこともあり、プライベートに配慮する必要のある内容であれば、直接職員が担任に電話し、経過を説明したり、学期ごとの個人懇談には、主に担当職員が参加し、福祉サービスの個別支援計画と教育支援計画の擦り合わせができるような形をとっている。

・例えば宿泊行事が近くなった際、入浴方法について保護者にも確認するが、事業所で入浴している生徒については、保護者の承諾を得て情報を得ることがある。

・計画相談支援事業所が定期的に学校宛に電話をくれるケースでは、福祉サービス・学校・保護者の思いを繋いでおり、知らぬ間に学校も福祉サービスと繋がっていたという事例があり、ありがたさを感じた。トライアングル(家庭・学校・福祉事業所)だけではなく、計画相談支援事業所の方に入ってもらえる事で出来上がっていくのではないかと感じる。

・保護者との懇談会にオンラインで事業所が入り、保護者・本人も含めて話ができる機会が設けられた事例もある。

・計画相談支援事業所は、モニタリングの時期に関係なく、必要な方に対し、支援会議の調整等行っている。

・トライアングルプロジェクトが始まっている事を皆が知っていけるように、必要な方に漏れないように伝えたい。相談支援事業所はトライアングルの真ん中にある立場である。

・今後は困り事が出てきていけば共有し、うまく進んでいなければ、なぜ進んでいないのか、一緒に考えられるのではないかと。

・最初に出会うまでのハードルが高いと感じる。1人の子どもが複数箇所の事業所を利用しているため、各事業所と話す事はなかなか難しい。計画相談員が間に入って繋がっていたが、担当者変更に伴い疎遠になってしまうケースもあった。継続的に繋がるための仕組みづくりが必要。

### 3.来年度からの部会の運営について

未就学の障碍のあるお子さん達について考えていくことも必要。就学前の関わりをされている機関の情報共有。

#### ○こども家庭センター

療育手帳の取得時に関わる人が多い。すでに相談支援事業所や通所事業所に行かれ、療育手帳の取得を目的に来所される方が多い。また、虐待ということで上がってくるが、話を聞くと、やりにくい・多動・言うことを聞かない・注意しても同じことを何度もしてしまうと子育てに悩んでおられ、発達検査をして、療育手帳を取得される方もいる。昨年度は4ヶ月以上待ちがあった。今年度、新規で申請される方は3ヶ月程度の待ちがある。

#### ○子ども発達支援センター

近年、多くの情報があり、不安なことをご両親が調べ早め早めに動かれていると感じている。健康センターと連携し、子どもの支援につなげている。

気になっているのは、児童発達支援事業所が増えたことで、今までは子ども発達支援センターへ通園したり、保育所・幼稚園に所属して支援を受ける事が当たり前だったが、どこにも所属せず小学校に上がる方がここ1.2年で数名居られる。相談支援事業所も年数回しか会わないとなると、どの機関が進路の話をして小学校に繋げるのか。今までとは違う課題を感じている。

#### ○その他

・児童発達支援事業所は月に何度か親子で通う機会があり、先生の療育の場面を見て、関わりを学ぶことができる事業所もある一方、預ける形態が多い。親のレスパイトも必要であるが、療育を事業所のみ任せにしてしまうことになっていないか。

・児童発達支援を利用する事で子どもたちの身体の発達が保障されている部分があり、保護者がフォローしきれないところは児童発達支援を利用し、保育所とうまく使い分けている家庭もある。

・保育所等で生活面を整え、児童発達支援では機能的なところをより細かく育て、子ども達にも変化があり、メリットを感じる部分もある。

・多様な事業所があり、保護者も選んでいる。ただ、うまく選択出来ない方や、手が離れて良かったという考えの方もいるかもしれないので、その辺のフォローをどこがするか課題がある。

・こども部会に児童発達支援事業所・放課後等デイサービス事業所の方に、入っていただくことを検討するのはどうか。

・保護者が<sup>しょうがい</sup>障碍受容でとても悩まれている。家庭にいる時はあまり気付かないが、集団生活に行くと気づき始める。幼稚園や保育園によく来られる母親たちは少しずつ受け入れていく一方で、

父親や祖父母等は受け入れられず、板挟みになっている事がよく見られる。支援に繋がっている子どもたちも大事であるが、繋がりがまだできてない人たちに、こども部会としても出来ることがあるのではないかと。現場の幼稚園教諭や保育士の話を聞きたい。

- ・ 障碍に対する周囲や家族の理解は課題。一緒に住んでいる父親や兄弟はなんとなく分かっているが、祖父母や親戚には障害の理解が得られず、「治るのでは?」「普通はこうではないか」等と言われたと聞くこともある。

- ・ 新たなメンバーを加えることで、良い意見が交わせるのではないかとと思う。

- ・ 学校関係や支援をしている放課後等デイサービスの支援者が加わる話が必然的になっていくのではないかと。

- ・ 就学前でしっかり療育が必要と考えている学校関係者・支援者もいるかもしれない。トライアングルプロジェクトを進行することを考えていくのは教育委員会だけではなく、こども部会でも考えていくところと思っている。

- ・ 実際の事例を元に検討出来たらと考えている。

○ 来年度の進め方について検討

### 第3回こども部会 (R3. 12. 8)

#### 1. 性教育の講演会について

【開催】 2022年6月22日に決定

【内容】 18歳未満の性教育についての講演内容を依頼

【開催方法】 ZOOM と来場のハイブリッド方式 (計 100 名)

後日、YouTube にて期間限定で配信有。

【広報ちらし】 現在事務局で作成中。

#### 2. トライアングルプロジェクトについて

○ 意見

- ・ 教育委員会・障碍福祉課より配布された様式は回収できているが、その次の面談についてはなかなか実施できていない。行政が関わっているケースは通所事業所、計画相談事業所と一緒にケースに取り組んでいる。新年度に情報が円滑に伝わる事が大切。年度初めの繁忙期にどう取り組むかが課題。

- ・ 4月の引き継ぎ時には、環境も変わるため、再度周知していく事も必要。

- ・ 事例紹介。現在は通常級に在籍し、放課後等デイサービスを利用中の児童について、計画相談員が特別支援学級への入級をアドバイスしたことを契機に、相談員・学校・保護者とで面談し、教育支援委員会（次年度特別支援学級に入級するかどうかの会議）にかけたケースがあった。

- ・ 事例紹介。学校の先生から相談支援事業所に相談があった。当該事業所は地区の委託相談支援事業所と計画相談事業所をどちらも担当していたが、それぞれの役割があるため、各相談員が参加して会議が行われたというケースがあった。計画相談と委託相談が違う事業所である場合も多いため、このようなことも周知したい。計画相談員は、モニタリング月以外の月にじっくり関わることが、正直難しい現状がある。地域の委託相談員にも繋がっていくことが望ましい形になるのではないかと。

#### 3. 来年度の部会の運営について

- ・ 常任委員にそれぞれの部署での困りごとを抽出して頂くことで、そこから必要に応じてゲスト

を呼び、プロジェクトチームとして話し合っていけるような形を取っていきたい。大きな課題から身近なこと困り事を1つ1つ優先順位を精査しながら進めたい。

また、医療的ケア児に関しての困り事等の意見も併せて聞かせてほしい。

・前回の話の中で、今後トライアングルプロジェクトを進めていくにあたって、放課後デイサービス等の福祉サービスの事業所に部会に入って欲しいとの話があった。検討は必要だが、自立支援協議会の仕組みとして常任委員になっていただきにくい事実もある。

・委員の交代や変更についての意見も欲しい。

→来年度の部会の運営についてのアンケートをお渡しし、後日回収した。

## 第4回こども部会 (R4.2.9)

### 1. 今後の部会運営について

○アンケートのまとめの報告

連携が取れていないとの意見が多く挙げられている。

こども部会からトライアングルプロジェクトを進めていくことや、医療的ケアの居場所が少ない為、医療を含めて連携していく必要がある。

体制については、テーマに沿って、委員を集めて話し合っていく事がより深く意味のある意見もたくさん出るのではないかな。

・来年度はマップが作れるような意見交換がしたい。委員の皆様の部署がどこの年代のどのようなどころで関わっているのかを意見交換し、こども部会参加の部署だけではなく、障害児に関わる支援機関が繋がるマップを作成したい。

### 2. トライアングルプロジェクトについて

○意見

・家庭の役割について、保護者の意識・協力がないと成り立たない。共働きで両親が忙しく、関わっていないという意見もあり、保護者の意識を変えていく必要がある。

・親の会として出ている意見。以前は放課後等デイサービスがなく、療育センターを卒業したら家庭と学校と少しの療育のみの繋がりであったが、今は充実した福祉サービスがあるため、頼ってしまいがちになる事は懸念されている。学校卒業後、家庭で過ごす時間が増えた時に困る事が考えられるため、福祉・学校、そこに家庭の役割、関わりも成長に必要と伝えていきたい。

・連携がどうできていないのか、部会で意見をまとめながら、宝塚市の障害児の子育てや支援マップ等、形になるものへ繋がればと思う。

・来年度に関してはテーマづくり、トライアングルプロジェクトについてメンバー・体制を改めて考え直していけたら。

・福祉サービスの使い方について考える事も必要。

・保育所等訪問支援は、継続的に支援者が児童の経過を追っていくものではないと認識している。

・放課後等デイサービスだけではなく、短期入所支援等についても、なぜ利用するのか、根拠を持って利用する必要がある。

・今年度配布した資料については、入学説明会の時にお渡しする予定。

・次の課題となるのは、在校生・新入生に対して再度働きかけをする点。学校に全て任せてしまうと学校によって差が出て来てしまう為、教育委員会から再度通知があると良いのではないかな。新学期も皆そろってスタート出来れば、希望している人に繋がれるシステムづくりができる。

- ・配布することによって今までなかったような繋がりが出来てきている事は感じている。
- ・教員の入れ替わりで取り組みが抜けてしまう学校がないようにしたい。丁寧に取り組んでいけば定着していくのではないかと考えている。
- ・3者（家庭・教育・福祉）の連携で連絡帳の共有については、福祉サービスを利用している児童の全体の8割程度が共有できている。連携を意識している保護者も多くなっている。
- ・放課後等デイサービスだけでなく、医療面も含めて担任が把握できるようにしている。
- ・放課後等デイサービスの通所先が変わる方や違うサービスの利用を始める方もあるため、毎年聞くことにメリットがある。
- ・保育所等訪問支援について、4月より市内でも子ども発達支援センター以外の事業所が事業を開始しており、今までは通常は関わりのない支援者が単発で関わる支援が多かったが、通常の様子を知る先生が学校へ訪問できる事業所ができています。

### 3、性教育の講演会について

#### 確定事項

【講師】平木 真由美先生 【開催日時】2022年6月22日午前中

【開催場所】中央公民館

【開催方法】ZOOMと来場のハイブリッド方式（計100名）

後日、YouTubeにて期間限定で配信有

【内容】「みんなで考えよう、発達障害とセクシュアリティ」

【対象者】保護者・支援者等（幅広く周知）

【その他】・手話通訳・要約筆記有 ・託児 未定

申し込みは基本的にはGoogleフォーム（QRコード読み込み）を基本。電話でも可。

申し込みは宝塚市の方優先であるが、Youtube配信では色々な方に幅広く見て頂けたら。

#### 次年度以降の取り組みについて

- ・6月の講演会の開催
- ・連携の重要性を皆感じている。今後は、支援マップの作成とトライアングルプロジェクトを継続する。